

Katharine Ross

◆キャサリン・ロス



卒業

THE GRADUATE 1967年

監督 マイク・ニコルズ
脚本 バック・ヘンリー
カルダー・ウィリンガム
原作 チャールズ・ウェップ
製作 ローレンス・ターマン
出演者 ダスティン・ホフマン
アン・バンクロフト
キャサリン・ロス
音楽 ホール・サイモン
デイヴ・グルーシン
撮影 ロバート・サーティース
編集 サム・オースティン
配給 Embassy Pictures / ユナイテッド・アーティスト
公開 1967年12月22日 / 1968年6月8日
上映時間 105分



あまりにも有名な花嫁強奪シーンで華麗な演技を魅せた

HEROINE
Of American New Cinema

サイモン&ガーファングルの名曲「サウンド・オブ・サイレンス」や「ミセス・ロビンソン」とともにこの映画を想い出す人は少なくないだろう。「俺たちに明日はない」と同じ1967年に公開されアメリカン・ニューシネマを代表する作品のひとつに数えられるのが『卒業』だ。ダスティン・ホフマンの映画デビュー作であり、舞台俳優出身のマイク・ニコルズ監督がアカデミー賞監督賞を受賞した青春映画の名作である。成績優秀で大学を卒業したベンジャミン（ダスティン・ホフマン）は、両親が開いてくれたパーティで父の知り合いのロビンソン夫人（アン・バンクロフト）と出会い、肉体関係を持った。そこへ夫人の娘エレーヌ（キャサリン・ロス）が帰郷し、ベンジャミンの心は揺れ動く。次第に純真で可憐なエレーヌに惹かれ愛し始めるベンジャミン。夫人は二人の仲を引き裂き、エレーヌをカールと結婚させようとする。ベンジャミンの気持ちは変わらなかった。教会でのラストシーンは、映画史上の名場面にも数えられる。「明日に向けて撃て！」でもヒロイン役だったキャサリン・ロスは、清純派でニューシネマ世代のアイドルの女優だった。